



はくがんさん

白巖山 法住寺 発行
〒410-2501
静岡県伊豆市下白岩563
☎0558-83-0320 FAX0558-83-0391
<http://juryo.jp/>
令和5年 お盆（初号）



日本一の檀信徒の皆さんと共に



報恩感謝

まずは、今式を行うにあたり何度も会議をし、事前より準備を頂いた護持会総代役員の皆さん、様々な役を快くお受け頂いた皆さん、日本一の法住寺檀信徒・十二日講・白龍會・縁者の皆さん、影日向にお力添え下さった皆さん、御礼を申し上げます。誠に有難うございました。

お蔭さまで当日は山内に笑顔溢れる継承式を厳修することが出来ました。

皆さんのお寺 白巖山 法住寺

法住寺は平安時代中期天台宗・法樹寺として草創されます。その後、永正元年一五〇四年、玄龍院日圓聖人により日蓮宗に改宗、白巖山・法住寺となります。栄枯盛衰、三度の大火にも遭うこともありましたが、五百十九年の長きに亘り三十五人の歴代住職の情熱と、檀信徒のご先祖さま、そして今を支えて下さる皆さんの思い、お題目が脈々と流れ続くお寺です。



新任職寺族紹介

第三十五世

境行院日洋 瓜島信行人

より法燈を継承致しました

第三十六世

境洋院日明 瓜島洋明です。

まずは寺族紹介を致します

前任職は院首【いんじゅ】となりました。昌子寺庭も院首婦人となります。最近「前任職の信行上人を何て呼んだらいい？」と聞かれますが、どうぞ「院首【いんじゅ】さん」と呼んで下さい。私は、今まで通り呼んで頂けると嬉しいです。今後とも宜しくお願い致します。



院首夫妻（いんじゅ）
信行上人・昌子寺庭



新任職寺族
住職洋明・幸代寺庭
長男大洋・長女采海

皆さんは身内

法住寺では三〇年ぶりの住職交代の法燈継承式でした。

式にあたって、最初に檀信徒の皆さんにお願いしたこと、それは「法住寺の檀信徒の皆さんは身内です。本来は皆さんをお客さんとしてお迎えしたいのですが、今回は沢山のお上人が各山を代表して私たちの御本尊さまに御題目を唱えに来て下さる。どうぞ一緒に迎え下さい」とのお願いでした。この思いをご理解頂きましたこと深く感謝を申し上げます。



身延山での住職認証式
総代役員さんと共に



日本一の檀信徒と共に
それはそれは嬉しかった

私はこの法住寺が大好きです。今まで皆さんと、皆さんのご先祖さまに育てて頂きました。院首の信行上人はよく「うちの檀信徒は日本一だ」と言います。他のお寺さんが、この寺報を読んだら怒られてしまうかもしれません。私が、私も胸を張って「皆さんは日本一の檀信徒！」と、そしてそんな皆さんがいらっしやるのが誇らしく思うのです。皆さんは私の自慢です。

だからこそ、法住寺の住職として最初に山門をくぐる時、その『はじめの一步』を日本一の檀信徒の皆さんと、皆さんのご先祖さまと一緒に、共に肩を並べ、同じ方向を向いて入りたかったのです。

肌寒い中、皆さんが共に歩んで下さったこと、また諸役で行列に加われなくとも各所で御尽力頂けたこと、当日参加出来ずとも思いを寄せて頂いたことが何よりも嬉しく、心強かったのです。



頂いた功德は振り返って皆さんにお渡しし、使わせて頂いた
その功德はお返しします

式中の奉告文では、お寺の縁起と信行上人・昌子寺庭が皆さんと歩んできた歴史を申し上げた後、次の事を仏天に誓い上げました。



十年前、年末水行の際に写真に御姿を現して下さった龍神さまに教えて頂いたこと。

それは『この法住寺には歴代上人と檀信徒のご先祖さま、今を支えて下さる皆さんの情熱と、お題目を唱え積んで来て下さった沢山の功德の蓄積がある』と教わりました。「頂いた功德は、その功德を頂いている」といこと」と教わりました。「頂いた功德は、振り返って檀信徒の皆さんにお渡しし、使わせて頂いた功德は、皆さんと、次の代、そのまた次の代に使って頂けるようお返しします。だからその功德と御守護を十分に頂戴させて下さい」と。

皆さんと、次の代、そのまた次の代に使って頂けるようお返しします。だからその功德と御守護を十分に頂戴させて下さい」と。



年末水行の際に御姿を現して下さった
龍神様

毎年一期一会の七面山登詣「皆さんを七面山にお連れし隊」白龍會万灯講・毎年五月に檀信徒有志と行う日蓮聖人所縁の伊東く法住寺までの約三十五キロのお題目行脚に、毎月の月初め行脚。沢山の方に「お詣りしてよかった」と思って頂けるように、日々仏天にご給仕し、また精進と行を重ね、その頂いた功德をお返ししていきたいと思いません。私自身、何か特別なことは出来ませんが、皆さんと共に肩を並べ、同じ方向を向いて祈ることは出来ます。この法住寺が皆さんの心の拠り所となるように日々精進してまいります。

笑顔のお詣りの
お寺を目指して

お釈迦さまは一夜賢者の偈という教えで「過去に縛られることないようだね。昔は奇麗だったとか、昔はあんなことこんなことも出来たと言っているのは執着だよ。かといって、まだ起こってもない未来には、絶望も不安もいらないのだよ。それは、まだ起こってないのだからね」と説かれました。

さらに「過去・未来ではなく今が大事。迷ったり、不安になった時こそ、今の目の前のことをよく観察し、丁寧に取り組みなさい。先の事ばかり考えず、目の前のことを丁寧にやりなさい。それが今を生きる【智慧】という悟りになるのだよ」と説かれました。

法住寺ではお葬儀・法事・ご供養のお経もありますが、今を一生懸命に生きているからこそその相談事、御祈祷も日々あります。

悩み、苦しみ、迷い、時に泣きながらお詣りされる方が、何度もお詣りしている内に、いつの日か笑顔でお詣りして下さるよう。時に「主役は自分」と人生の舞台を笑顔で過ごすことの出来るよう。真っすぐに、そのおもいと祈りをお届けることが出来るお寺を目指していききたいと思います。



身延山での住職認証式



信行住職・昌子寺庭婦人
住職・住職婦人としての
最後の祈願会お疲れ様でした



継承式前の本堂内陣



旧本堂の礎石と紅白の花



親子固めの盃



伊東一衛護持会長宅での親元の儀



総代さんと護持会長ご家族と



親元の儀祝杯



皆さんと共に入った山門



親元の儀の諸役上人と



入寺行列のお迎え



白龍會・檀信徒の皆さん
入寺行列のお迎え



纏と共に



勇敢な纏



入寺行列



皆で出発



白龍會 纏の先頭で



皆と共に



山門前での万灯



山門まえでの万灯



本堂へ続く階段を



日本一の檀信徒の皆さんと共に



入寺行列のお迎え



白龍會・檀信徒の皆さん
入寺行列のお迎え



皆共に



皆で本堂へ



皆さんありがとうございます



江戸時代からの石段を



本堂へ到着



新住職と皆さんを待つ信行住職



堂内を清める沙水



堂内を清める散華



式衆入堂



開式の半鐘



皆さんと共に合掌



信行住職30年間の節目



沢山の皆さんに見守られて



感謝のご回向



住職と共に歩んでこられた
護持会前総代役員のみなさん



御本尊さま・仏天・歴代上人
檀信徒のご先祖さまへの報恩感謝



見守る寺族



信行住職より新住職へ払子を継承



来賓の皆さん



新住職として



沢山の皆さんに見守られて



奉告文言上



共に歩んできた纏衆



伊東護持会長からの謝辞



記念写真



白龍會の練習風景



住職となって最初の
七面山登詣の御来光



笑顔沢山

入寺で申し上げた奉告文(原文)

伏して惟みるに當山は平安時代中期天台宗「法樹寺」として草創。その後、永正元年一五〇四年、玄龍院日圓聖人によりて改宗白巖山 法住寺と号す。以来、栄枯盛衰三度の大火に遭うと云えども五百十九年の長きに亘り三十五人の歴代上人が檀信徒と共に情熱を持ち、お題目を唱え、その法燈を脈々と繋いで下さって来た當山なり

第三十五世境行院日洋 瓜島信行上人は平成五年より本日に至るまで三〇年間、様々なる境内・内外の整備・伊豆法難七五〇年の砌には寿量の杜草創・寿量の塔建立殊に平成十七年には檀信徒の甚大なる尽力の元「私たちの本堂を」と異体同心にて平成本堂建立の大事業を円成す。

日々においては、大自然は法華経との信念にて法務の合間を縫っては、チェンソー草刈り機を持ち、鎌に鉈を腰に携え、このお山を法華経の山に、法住寺を野の花の寺にと、五〇〇本を優に超える植樹、檀信徒・寺庭・昌子と共に境内を整備・御給仕するものなり

殊更に信行上人「いきた法華経」をテーマに檀信徒に誠実に向き合っている法華経広宣流布。開かれたお寺を目指しては檀信徒にまずはお寺の事を知ってもらおうと寺報「はくがんさん」を年四回発行この春の最終号は百二十五回に至る。寺庭昌子と共にお寺にいらした方に寂しい思いをさせないようにと笑顔という御題目と、時に言葉以上に教えてくれる野の花を活けては檀信徒をお迎えし寺檀和融にて教化・伽藍相續すること此れ當に中興の偉業なり

此の度信行上人、物事は引き際が大切との思い今ここに表し、図らずも不肖・沙門洋明・干与人・総代・護持会の推挙を得、法縁・有縁各聖の御臨席、多くを学ばせて頂き御指導を頂戴する各聖の御助力、檀信徒の御尽力と御参列を戴き、大曼荼羅御本尊・諸尊・諸菩薩・諸天善神・我祖日蓮大聖人・法住寺歴世代々各上人、更には檀信徒各家先祖代々之霊位の御前に於いて、第三十六世の法燈を継承することは法悦感謝極まりなし

茲に法燈継承を頂戴するにあたりて仏天に御報告したきことと、その思いあり。今から十年前、檀信徒と年末に水行をしていた際の写真を取戴す。その写真には、はつきりと竜神様が御姿を御現しにされる。沙門、凡夫にて浅学菲才、何故にその御姿を御現しにされたのか分からぬが故に、その写真を御宝前に安置し日々読誦す。そのちようど一週間後に三島市玉澤・覚林院・木内桓光上人に御会いすることあり。上人会うなり直ぐにある話をして下さる。

「お寺には歴代上人と、その時代その時代を支えて下さった檀信徒の情熱と、思いを持って唱えて下さった御題目の功德の蓄積がある。今、自ら思うようにさせて頂けることは、その功德を頂戴しているということ。よって頂戴し使わせて頂いた功德は日々の御給仕・唱題・読誦・法華経布教にて御返しすること第一なり」と。更には「そのことを誰よりも仏天が見て下さっている」と。桓光上人まさに変化の上人となり沙門某、竜神様の御姿を拝す意味を感得す。

今ここに改めて開山上人以来歴代の各上人、檀信徒各家の御先祖様の霊位、法住寺有縁の霊位、信行上人と檀信徒の皆様が、本日に至るまで積んで下さった功德とその恩に感謝を申し上げ奉る。

此れより日蓮大聖人種々御振舞御書「各々が弟子とならん人々は一人もおくし おもわるべからず 各々思い切り給へ」の如く、情熱を持ちて今集う檀信徒とこれから縁結びて御題目を共に唱える縁者と、法華経の山を、法華経の道・御題目の光明に照らされたその道を歩みたく、何より、この法住寺が、皆の心の拠り処となり、今を生きる皆さんの笑顔のお参りあるお寺と致したく、沙門洋明、檀信徒の皆様と肩を並べ、同じ方向を向きて祈ってゆくことを茲に誓い奉る。

更に頂いた功德と御力は、当山と仏天・御先祖様・檀信徒の皆様が益々輝くよう、皆がよくなりますようにと祈り、その恩に報いんが為、日々精進し御返しすることを誓うものなり。

大曼荼羅勸請の諸尊・諸菩薩・諸天善神・歴代各上人、哀愍加被の御手を垂れ檀信徒と共に異体同心にして沙門洋明を御指導・御守護ならしめ給わんことを

南無妙法蓮華経
維時
令和五年四月二十二日

白巖山法住寺第三十六世

境洋院日明

恐々謹言敬白



ご志納金 「三月〜六月」

伊豆の国市 高橋美香 殿 尊母永代供養砌
 伊豆市 高村幸三 殿 尊母永代供養砌
 西 佐藤明美 殿 尊父葬儀砌
 元村 三田 満 殿 尊母葬儀砌
 当山 瓜島洋明・信行 法燈継承の砌
法燈継承式ご志納
 法住寺 檀信徒一同 導師・衣一式
 元村 山下要・敏子殿 燕尾・元政七条
 川崎市 田中洋江 殿 御宝前供物台
 伊豆市 水谷石材 殿 敷石工事一式

毎月の月初め行脚

毎月一日の早朝に一カ月の守護守り
 【月守り】の開眼をします。そこでは
 沢山のお経をお上げします。そのお経
 の功德を皆さんにお届けしようと思ひ
 月初め行脚を始めました。
 使わせて頂いた功德のお返しです。

仕事で時間が！年を重ねて足が！
 等々、〇〇でお寺に行けない！
 と皆さん色々おありでしょう。

ならばこちらから行きます！

皆さんのところに功德と気を元に戻す
 （元氣）お題目をお届けします。

*八月（お盆）一月（お正月）の際は前もつ
 て、雨天の際は日を改めて行脚致します。

大施餓鬼法要

八月三日（水）午後三時

そもそもお施餓鬼ってなに？

施餓鬼は、飢え・貪り・怒りなどで満足
 できず苦しむ靈魂に、これでもかと沢山
 のご供養をし救済します。すると仏さま
 は「皆さん、いいことをしましたね」と
 功德を下さいます。その餓鬼救済の功德
 を自分だけのものにせず、ご先祖さまや
 新盆の靈位にクルッと回し向ける（回向
 供養）するのです。

実は私たちの心の中にある怒りや貪り、
 わかっているけどやってしまう弱い心、
 すなわち餓鬼の心への供養にもなります。
 日蓮聖人も「供養は返って自分の為」と
 説かれます。自らの心の餓鬼供養にもな
 るのです。

お施餓鬼の際には、ご先祖さまに、「私
 は、あなたの子孫は、今日もがんばって
 ます」と今を報告する塔婆というお手紙
 を功德と共に送られて
 はどうでしょう。ご先
 祖さまもお喜びになり
 笑顔になられるでしょ
 う。



寺子屋道場開催

八月七日（月）

午前九時〜午後五時まで



コロナ禍で中止しておりました寺子屋を日
 帰りで開催します。恒例のツリークライミ
 ングも行います。定員は二〇名になります。
 参加希望の方は、別紙の申込書にて早め
 にお申込みください。

*定員になり次第

締め切らせて頂きます

月守り

私たちの両肩には、俱生靈神
 『健康を司る同生天・経済・
 財を司る同明名天』が母のお腹
 に命を宿した時から御守護下さっています。
 月守りとは、毎月交換する俱生靈神のお守
 りです。お一人お一人俱生靈神がそれぞれ
 違うため個々のお守りを作っています。毎月
 の祈願会や月詣りで交換するのですが、来
 れない方には郵送して頂きます。ご希望の方は
 お申しつけ下さい。

